

一番”しばれる”2月を乗り越えました。春を待ちながらまだまだ寒さに耐える北海道にて、札幌の王道、ビール園でジンギスカンを食べに行ってきました。

北海道には各ビールメーカー(サッポロ・アサヒ・麒麟)のビール工場とビール園がありますが、札幌といえば『サッポロビール園』です。工場移転に伴いビール園へと生まれ変わりました。当時の赤レンガ造りそのままのノスタルジックな風景は必見です。実は北海道に来てまだジンギスカンを食していませんでした。ユーザー様との話で、匂いもなく癖も一番ないと聞いていた生ラム・ラム醤油漬けを注文しました。生ラムは焼いても匂いがなく、想像より柔らかく美味でした。漬けは思ったより癖がなく、おいしく頂きました。

私がお勧めするのは、生ラムをお好みのタレで食べることです。決してマトンではなく子羊のラムですよ。家庭用には『松尾ジンギスカン』という商品が一番人気で、どこのスーパーでも売っています。

ビール園での生ビールは最高においしかったです。敷地内には、ビール博物館があり、立ち寄って日本のビールの歴史を観られることも魅力の一つです。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

寒い日が続いており、豪雪地域の方々には特にご苦労の多い事と存じます。

先日、仙台市の夢メッセみやぎで開催されました、『東北モーターショーin 仙台2018』に行ってきました。今年で11回目となるモーターショーで、各々のメーカーブースには東京モーターショーで展示されたショーカーや、運転席に座ることのできる市販車が多く、充実の展示車両でした。

メーカーブースにはコンパニオンがいて、望遠レンズを抱えた、写真が趣味と思しき男性で人だかりができていました。人だかりができると見たくなるもので、当方コンパクトカメラですが、隅からパチリ。

外には、大型車両等の展示の他、東北内外からのB級グルメ等の屋台がたくさん来ていました。私は黒石つゆ焼きそばの屋台で、つゆ焼きそばのつゆ無しをセレクトしました。角張った太い麺に強めのだしの味が効いていて個性があり、大変おいしく頂きました。

さらに、元F1レーサー鈴木亜久里氏のトークショー、妖怪ウォッチのショー、自動車専門学校生によるエンジン解体、組立て始動実演などがありました。車好きはもとより、グルメな方、写真好きな方、また比較的ゆっくりと見ることができるのでファミリー層など、多くの人が楽しめるショーだと感じました。

仙台営業所(所長:山田 義一)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



日ごとに暖かさが感じられるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。季節の変わり目ですので、くれぐれもご自愛ください。

さて、寒くなると食べたくなくなるものはたくさんありますが、その中でも『これは押さえておきたい!』というもの、それはカキです。先日、カキ小屋が手軽でお手ごろと聞き、行ってきました。場所は福岡県糸島市の船越海岸のとあるカキ小屋です。その日は意外に人が少なく、『大丈夫なの?』と疑うほど。とりあえず席に着き、カキ1kgをオーダーしました。ちなみにカキの焼き方という説明書(?)もありました。内容は、

- ①初めに平らな方を下にして1~2分焼きます。
- ②次に丸みのある方を下になるように裏返して2分以上焼きます。
- ③ふたが開いたところで、平らな方の殻の貝柱をナイフではずします。
- ④ふたをはずし、そのまま加熱。ぐつぐつと煮上がったたら、お召し上がりください。…など。

焼き上がった新鮮なカキを片っ端からポン酢を付けて食べてみましたが、やっぱり美味しいです!ビールが本当に合います!ちなみに私は火をしっかりと通した方が大好きです(笑)

また、糸島市は観光スポットとしてもたくさんの見所があります。機会があれば是非、行ってみてください!!!

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

『牛に引かれて善光寺参り』ということわざがあります。その善光寺と名の付くお寺は全国に200以上あるようです。その中でも有名なのが、ことわざのたとえにも出た、長野の国宝『信州善光寺』です。

しかし、今回行ってきたのは、その信州善光寺ではなく、山梨の『甲斐善光寺』となります。

昔々、川中島の合戦で、そばにあった信州善光寺が焼かれるのを嫌がり、あの武田信玄が甲府に甲斐善光寺を建立しました。ご本尊や仏具諸々と、すべての僧侶が移動したようです。

そんなことで信州善光寺とは戦国時代からつながりが深いため、ちょっと遠かったのですが行ってきました。信州と比べると小ぶりなのですが、本堂とその周りの武田菱の家紋付き建造物に歴史を感じながら散策し、お参りしました。

その後は、また大好きな富士山を眺めに行き、帰路に就きました。

東京営業所(所長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は富山県高岡市にある『高岡市万葉歴史館』を紹介いたします。万葉集について特に詳しいわけではありませんが、万葉集の歌人で編者でもあった『大伴家持』に由来して建てられた施設のようなです。

家持は今から約1270年前、越中国守(今の富山県知事のような職種)として高岡の地に5年間に在任していました。その間、越中で詠まれた歌が220首ほどあり、これを『越中万葉』と言います。これに由来し、高岡市が家持を通じて万葉集にゆかりの深い地とし、歴史館は1990年に開館しました。

館内の庭は、万葉集ゆかりの花木を植栽した『四季の庭』になっており、季節ごとに趣が変わるようです。また、館内では家持の越中での足跡や歌などが紹介されています。万葉集の断簡・注釈書・古写本なども保存されています。

他に気になったのは、当時の食事が食品サンプル?のような形で再現され、展示紹介されていることです。やはり現代と比べるとかなり質素なイメージです。館内は混み合っておらず、落ち着いた感じなのでゆっくりと見学できると思います。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

景色の良い明石海峡大橋。仕事の時や休日の観光で何度か渡っています。この世界最長の吊り橋の構造や工事の様子を展示している『橋の科学館』があります。

科学館は明石海峡大橋のたもとにあります。こちらでは、この橋だけでなく、本四連絡橋となる瀬戸大橋やしまなみ海道の橋などの説明もあります。

まず、科学館前のアングルから明石海峡大橋を見ると、何度も渡っている橋ですが、スケールの大きさに感動します。この角度から見ると、アメリカのTVドラマに出てくるニューヨークのブルックリン橋に似ていると思いまし

た。この景色だけでも来た甲斐があります。

次に、科学館に入ると、工事で作った台船の模型や実物大巨大ナット、直径1m以上の吊りケーブル、約300mある主塔の説明など。細かな説明もありますが、どれもスケールがデカイ。

科学館の目の前にある、体育館のような建物は何か、と思えば橋のケーブルを引っ張るおまりの役目をするアンカレッジでした。外も大きいですが、地中に埋まっている部分は、深さ63m幅85mと桁外れに大きい。日本の技術はスゴイと感心した1日でした。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

現在、世界には生活を楽にするための多くの案があります。ロシアのカープール(相乗り)から始まり、この頃は、Uber、Grabなど、このようなアイデアが大きなビジネスになっています。世界でもバイクシェアリングが導入されていますが、ビジネスを提供する会社が倒産するなど、中国の最新ニュースでは苦労していることが伝えられています。

シンガポールでは、公共交通機関が広く利用されています。そのため、好きな場所で借りられ、戻せるバイクシェアリングは急速に広まっています。しかし、正しくない駐輪場に返却されるという問題が出ています。時には、自転車が茂みや水路などに置かれていました。

政府はこれを受け、利用者が指定の駐輪場に戻さなければならぬよう、いくつか駐輪場を指定するように運営者に求めました。柔軟な対応で、現在、このような問題は改善されつつあります。さらに政府は、運営者に駐輪場で故障している自転車を毎日チェックし、すべての自転車を利用できるように要請しました。

公共エリアにたくさんの防犯カメラが設置されているにもかかわらず、利用者の無責任な行動が見られます。快適さと利便性が共有できるように、ルールは必要です。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日、アメリカの東海岸に住んでいる友人家族がカリフォルニアに遊びに来ました。友人には去年産まれたばかりの赤ん坊がおり、何処に行くにしても車移動となる為、妻の知人づてにもう使用していないチャイルドシートを借りる事になりました。

今までチャイルドシートを設置する必要性が無かったので、あまり詳しく知らなかったのですが、アメリカでも特に車社会であるカリフォルニアでは日本よりも厳しい規定がありました。

まず、8歳未満の子供はチャイルドシートの使用が義務付けられており、2歳未満の子供は前向きでは無く、進行方向とは反対の後向きのチャイルドシートの使用のみ認められています。また設置する場所についても、事

今年の冬季、オランダは寒さが長期化しています。2月末から3月になった今もなお、気温は-10度。この時期、オランダではカレンダー通りに冬は終わりません。また、天気の詳細家によると、-15度から-18度の寒風に直面しているそうです。長年観測されてきた気温や冬の天候は、今年の記録にすべて破られることでしょう。これは北西風によって、北極の冷たい空気が私たちの国に吹くことによるものです。

以前、冬は比較的穏やかで、厳しい寒さはありませんでした。しかし今や、水や湖・運河の凍結は長期化し、一面に張った氷はスケートをするのに十分な厚さです。今ではオランダの多くの凍った湖や運河で、スケートをやるイベントがあります。多くの家族や人々は、雪が降り始めると、スケートやソリをして楽しみます。このことから、春が始まる3月でも雪が降っていることが想像できると思います。それでも、すぐに天候と気温が良くなり、春が始まることを望みます。しかし、外に目を向けると、現状では当面実現しそ

KIO(オランダ)(Jan van Mier)

故の際にエアバッグが飛び出して危険という点で助手席はダメで、後部座席しか認められていません。なおかつチャイルドシート自体も5年以上前のものは使用できない(州法もコロコロ変わる様なので確定情報ではありませんが)とも言われています。

当然ながら赤ん坊でも抱っこ紐で抱えた状態で車で移動するなんて事もダメで、こういった規定を違反した場合、罰金は600ドルにも上る様です。自分にとっては初めてのチャイルドシートの使用となりましたが、万一の事態に備え、子供の安全を最優先にという意図をしっかりと感じる事が出来ました笑。

KCS(アメリカ)(専務:江尻 拓馬)

インドネシアのジャカルタでは、『オンラインタクシー』、『オンラインオートバイ』が盛んになっています。利用している方はまちまちで、中学生からお年寄りの方までいます。

最近では、ローカルタクシーとオンラインタクシーとの間に摩擦が起きています。ジャカルタ政府は仲介者として何度も話し合いを設けています。今までのやり方と新しいやり方でのバランスが取れるまでは、摩擦はどこでも起こり得ることで

現在、オンラインタクシーに懸念されていることは安全面についてです。オンラインオートバイに予約が入り、目的地に着くとバイクを強盗されたという事件が何件も発生しました。また、高校生がオンラインタクシーに乗った際、目的地とは別の場所へ連れて行かれ、数日後、遠く離れた場所で見つけられました。生活は便利になりますが、安全面でより強化することは政府の課題となっています。

一方で、オンラインタクシーだけではなく、オンラインで服や本を売る商売も盛んになり、たくさんの方が利用しています。従来の店舗で買うことはだんだん少なくなり、出向く人の数はぐんと下がっています。時代の変化に順応できないビジネスが淘汰されていくのは、時間の問題といっても過言ではありません。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

皆様新年好！中国蘇州では、ようやく春節(旧正月)が終わりました。街は赤色ベースに金色の入った提灯の飾り物などが少しずつ消えていき、通常に戻りつつあります。

さて、今の中国では、スマートフォン1つあれば何でもできるようになりました。日本よりはるかに顕著で、買い物や食事の支払い、タクシーなど携帯電話の画面にタッチするだけで済んでしまいます。あのシェアサイクルだって大丈夫です。びっくりするのは屋台などの小さな個人経営のお店などにも浸透している事です。

買い物に関しても恐ろしいほど楽です。カートに入れた商品はワンタッチで決済が完了し、尚且つ安心です。5年ほど前から浸透し始め、今では老若男女を問わずスマホでお買い物をしているようです。

今までは限られた行動範囲の中で、自分の予算内での買い物しかできませんでした。特に高齢者の行くお店は毎回同じで選択の幅が狭い。スマホ社会のインフラ整備によって、中国の発展やファッション事情が大きく変わったと言っても過言ではないでしょう!!

ネットショップの良くない店はどんどん淘汰され、今は利用者のニーズに合わせて価格のみならずデザインも重視し始めているようですね！確かに私が赴任した当時に比べるとみんなオシャレになったなあ！と感じます。

KHE(中国・蘇州)(総経理:板垣 仁志)